



# 令和4年度決算のポイント

令和4年度の財政運営は、引き続き新型コロナウイルスワクチン接種を始めとする新型コロナウイルス感染症拡大防止に万全を期すとともに、原油高や物価高騰の影響を受けている市内の医療機関や介護事業所、障害福祉サービス事業所等に対して市独自施策に給付金を支給した他「さきめしいこま」の継続した取組、公共交通事業者への支援等にも注力し、社会経済情勢の変化にも対応を進めました。

一方、将来都市像の実現に向けて、多様な働き方・暮らし方を推進する「いこまファーマーズスクール」「いこま経営塾」といった事業や生駒駅南口周辺の都市空間再編、また教育環境の充実といった政策を推進し、より豊かな暮らしが叶う住宅都市へと進化する取組を進めました。

## ■一般会計の概要

決算収支の推移

(単位:百万円)

年度	H30	R元	R2	R3	R4
歳入	37,178	41,792	52,556	46,654	44,630
歳出	35,119	40,166	50,685	43,406	42,410
実質収支	1,131	1,478	1,811	3,180	1,974
単年度収支	226	347	333	1,369	△1,206

歳入…国税収入の増加に伴う地方交付税の増や地方消費税交付金の増があったものの、市債収入の減等により全体として減収となりました。

歳出…清掃センター基幹的設備改良事業や原油高や物価高騰に対応するための事業費が増加する一方、子育て世帯への臨時特別給付金や新型コロナウイルスワクチン接種事業費等が大幅に減少しました。なお、前年度の実質収支を活用して、光熱水費高騰への対応や、公共施設の改修、基金への積立等を行ったことから単年度収支は、12億600万円の赤字となりました。

## ■特別会計の概要

全ての特別会計（公共施設整備基金、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療）で黒字あるいは収支均衡となりました。

## ■財政関係指標等

### ◇財政指標

- ・経常収支比率は、歳出において、原油高や物価高騰の影響による光熱水費等の物件費が増加したこと等により全体として増加し、さらに、歳入において、臨時財政対策債の大幅な減少により全体として一般財源が減少したことで、90.1%と5.7ポイント上昇しました。
- ・実質公債費比率は、単年度においては、前年度からほぼ横ばいですが、3年平均の数値となるため、令和元年度の数値が算定対象外になったことで3.9%から2.3%に改善しました。
- ・実質赤字比率は－%（△8.05%）、連結実質赤字比率は－%（△24.25%）、将来負担比率は－%（△123.1%）となりました。

### ◇積立基金・市債残高

- ・積立基金残高は126億3,200万円で、令和3年度の実質収支を各種基金に積み立てたことなどにより、前年度から17億8,200万円増加しました。
- ・普通会計の地方債残高は138億5,100万円で、新規借入額の減少や既存の市債償還が進んだことなどにより前年度から20億6,900万円減少しました。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市財政課（課長 小澤） ☎0743-74-1111(内線 4350)